

プラス記事 2%増、ニュートラル・マイナス記事 16%減

東京オリ・パラ関連企業が上昇 ソニー、自動運転車向け製品を公開

1月度のプラス評価は88億883万円、ニュートラル・マイナス評価は51億5689万円だった。前月と比較するとプラス換算値は2%増、ニュートラル・マイナスは16%減だった。例年1月は企業トップのインタビューなどで「人」の換算値が増加する傾向にあるが、今年は夏に開催予定の東京オリンピック・パラリンピックが取りあげられるケースが散見され、出場が内定している所属スポーツ選手や関連事業が注目された企業のランクインが目立った。

2位全日本空輸は2019年7月以来6カ月ぶりのランキング入りとなった。競泳の五輪日本代表に内定した瀬戸大也選手が読売の元旦別刷りで取りあげられたほか、24日には陸上三段跳びの山下航平選手が紹介され、「人」の換算値が1月の80%を占めた。

4位パナソニックは、朝日の元旦別刷りに7人制ラグビー日本代表候補の福岡堅樹選手が登場。また、東京五輪の式典での採用を目指す「高速追従プロジェクトマッピング」の開発が日経の五輪特集面

で紹介された。

そのほか五輪関連では、17位AOKIホールディングスや18位ナイキが注目された。

12位ソニーは、米国で開催のIT見本市CESで自社の画像センサーを搭載した自動運転の試作車を公開し、全紙が8日紙面で記事化した。日経は「見本市の会見で同社が自動車向け製品をメインに発表するのは異例」と報じ、スマートフォン向け半導体では高いシェアを持つものの自動車向けでは後発組の同社が「自動運転などの次世代車の普及をにらんで力を入れ始めた」と解説した。

14位任天堂は、ユニバーサル・スタジオ・ジャパン(USJ)に同社のゲームキャラクターをテーマにした新エリアを開業すると発表した。日経と毎日が14日夕刊で第一報を掲載し、翌朝刊で読売以外の4紙が記事化した。東京オリ・パラ前の開業予定で、体の動きと連動して楽しめる次世代アトラクションに注目が集まった。

プラス記事掲載ランキング

換算値:千円

順位	企業名	換算値	主要な掲載要因
1	トヨタ自動車	274,057	次世代都市「コネクテッド・シティー」構想や「空飛ぶクルマ」事業参入を発表。
2	全日本空輸	253,002	読売の東京五輪特集で競泳の瀬戸大也選手、陸上の山下航平選手を紹介。
3	JR東日本	182,284	日経の「何でもランキング」に東京駅、日立駅、金沢駅がランクイン。
4	パナソニック	132,921	朝日1日の別刷りにラグビー部の福岡堅樹選手が登場。ほかトップリーグなど。
5	JR東海	124,906	朝日「凄腕しごとにん」で新幹線の洗浄作業の様式。引退予定の700系など。
6	ホンダ	121,319	朝日「ルポ2020カナリアの歌」にラグビー部のレメキ・ロマノバ選手が登場。
7	ダスキン	113,530	読売「LEADERS 経営者に聞く」に山村輝治社長が登場。「社長・会長」50%。
8	大和ハウス工業	113,202	日経「未来面」に芳井敬一社長が2回登場。「社長・会長」97%。
9	東芝	112,019	量子暗号通信の今年度中の実用化を発表。子会社ニューフレアのTOBが成立。
10	グーグル(米)	104,766	利用者のインターネット閲覧履歴の追跡制限を発表。「販売」52%、「技術」19%。
11	ツイッター(米)	98,920	日経「ツイッターここに注目」2回。ほか故人のアカウントの削除方針など。
12	ソニー	96,845	米IT見本市CESで自動運転の試作車を公開。「技術」35%、「商品」33%。
13	日本航空	93,840	会社更生法適用から10年を迎え、経営再建の経過を各紙が特集。「経営」44%。
14	任天堂	89,610	USJに新エリア「スーパー・ニンテンドー・ワールド」を開業すると発表。
15	大和証券	88,965	日経「私の履歴書」に元社長の鈴木茂晴氏が登場。「人」82%、「販売」17%。
16	三菱UFJ銀行	80,845	亀沢宏規副頭取が三菱UFJ・FGのCEOに就任。「役員」43%、「販売」40%。
17	AOKIホールディングス	77,818	東京オリ・パラ日本選手団の公式服デザインを発表。「商品」95%。
18	ナイキ	77,677	陸上で好記録を量産した厚底シューズをめぐる話題。「商品」96%。
19	イオン	77,256	吉田昭夫副社長が社長に昇格、岡田元也社長は会長に。「人事」76%。
20	東京メトロ	73,762	銀座線渋谷駅がリニューアル。ほか朝ラッシュの緩和施策「スムーズビズ」など。